

男女共同参画推進委員会—パネルディスカッション

「パリテ」で考える、これからのワークライフバランス

[資料なし]

9月12日(火) 9:00~12:30 オンライン 第M室

司会 小野島一(大林組)

副司会 吉川理恵(竹中工務店)

記録 八藤後猛(日本大学)

1.主旨説明 萩島 理(九州大学)

2.主題解説

①建築分野では働く人の職場環境、意識、働き方は変わったか?

アンケート調査のデータ分析結果の報告

山崎 晋(日本大学)

②様々な立場でのワークライフバランスを目指した取組

河崎由美子(積水ハウス)・中沢英子(大林組)・

とりやまあきこ(あとリエ)・平将次郎(竹中工務店)

3.討論 建築分野におけるより良いワークライフバランスを求めて

モデレーター:井上竜太(竹中工務店)

4.まとめ 寺田 宏(東畑建築事務所)

2008年の行動計画からスタートした日本建築学会の男女共同参画推進活動は本年で15年目を迎える。その間、社会では急激な少子化による労働人口の減少が進み、政府により働き方改革や女性の活躍促進に関して様々な施策が進んでいる。2020年には、国土交通省と業界団体が共同し、建設業界における女性の定着促進のための行動計画が策定された。また、2023年4月からは一定規模以上の企業では男性従業員の育休取得率の公表が義務づけられるなど、男性の育児参加を尊重する就業環境の醸成が事業者には強く求められている。さらには、2024年4月から建設業での時間外労働の上限規制が適用される。こうした政策誘導による急激な変化に対して、私たちの実際の職場環境、働き方、ワークライフバランスへの意識はどのように変わった/変わりつつあるのだろうか?このような問題意識のもと、本パネルディスカッションでは「パリテ」の登壇者たちによる“ワークライフバランス”について、様々な取組みや経験を共有することを目指す。

主題解説では、2022年に男女共同参画学協会連絡会が実施した「第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」における本会会員のデータを2017年のデータと比較分析した結果を報告する。続いて、4人の登壇者から、ハウスメーカー、建設会社、設計事務所等に

おける男女のワークライフバランスの取組事例、建設会社で働きながら家事育児へのコミットを模索した体験などの話題を提供していただく。その後、建築に携わる人のワークライフバランスについて、参加者を交えディスカッションを行う。男女問わず多くの方に参加いただき、これからの建築界でのより良い働き方を考えるきっかけとしていただければ幸いです。